

他者参照等の手法を取り入れた思考・判断・表現力を鍛える指導



(全国学テ結果) 記述式問題の解答・正答率が低い ⇒ 自分たちで考える力が弱い

1 スケジュール

年	月	コアチーム 長・頭・教務・研究	推進教員	他全職員	
R5	6	取組方針決定			
	7	助言	研究 授業案作成		
	12	参観 振り返り	授業試行 振り返り		
				授業案練直し	
	1	参観 研究協議	校内研究授業 研究協議		参観 研究協議
		助言	授業案作成・各自で試行		
R6	4～	全面実施			

2 使用するソフトウェア

Googleフォーム ジャムボード
スライド AIテキストマイニング

3 実践例

やなせたかし (伝記を紹介しよう) 単元計画

1	単元の見直しをもとに ①意味調べ ②どんな人物だと感じたか (〇〇な人。なぜなら～) ※初読の感想 googleフォーム→AIテキストマイニングで可視化 ③最後に1人選んで紹介することを伝える (伝記をつくる)
2	エピソードを通して伝えようとしたことを考えよう ①【T:人物像として出た意見を事前にピックアップしておく】 →ジャムボードでエピソードと関連付けて整理する
3	②戦場と東日本大震災を比べる (どちらにアンパンマンはいてほしい?正義とは)
4	伝記づくりの流れをつかもう ①紹介文の構成をつかむ スライド ※5枚程度。必ず書くのは(1)(2)。国語として根拠をもたせたまめが できているかで評価。 (1)写真と名前 (2)〇〇な人 (3)～(5)説明 ②印象的なエピソードからスライドを作る
5	伝記を作ろう
6	【インターネットの活用】
7	・形式はある程度自由。上手な人のまめ方を調べても良い(プレゼン資料の作り方など)。ただし目的(〇〇な人とその根拠)から逸れないように気をつけさせる。 【難しそうにしている子どもへの支援】 ・テンプレートを用意しておき「使ってもいいよ」と声をかけておく。 ・エピソードの選び方については「ピンチをチャンスにしたところ」を指標にするとよいと声をかける。
8	伝記を紹介しよう ①作ったスライドを用いて発表をする ②分かりやすかった人について整理する (どうして分かりやすかったのかを確認することで、次単元へとつなげる)

使用するアプリやサイト

- ・googleフォーム
- ・AIテキストマイニング
- ・ジャムボード
- ・スライド



他者参照等の手法を取り入れた思考・判断・表現力を鍛える指導

4 教員の変容と児童の状況

1学期は「ICTの利活用促進」という漠然とした目標を掲げていたが、2学期より標題のとおり、具体的な目標に変更した。その結果、教員のスライドの利用状況が大幅に増加した。

		ドキュメント	スプレッドシート	スライド	フォーム	ジャムボード
2学期	R4	109	62	38	36	5
	R5	400	135	255	101	26
3学期	R4	220	68	55	71	5
	R5	294	100	328	81	30

※ R5の3学期は2月26日時点

5 他者参照の効果～児童のアンケート結果から～

- 深く考えるきっかけが得られる（新しい気づきを得られ、自分の考えが広がった。みんなの意見から「次からはこうしよう」と考えたり、いろんなことを学べたりできた）。
- 一人では難しい課題でも、見通しがもて、挑戦する（友だちの意見をもとに、自分の意見をまとめることができた）。
- 自分の考えと同じ友だちがいることがわかり、自信をもって、課題に取り組める。
- 一人ひとりが活躍する機会が増える（普段は人前で話せない友だちの意見も見ることができているのが良い）。

6 その他の効果と本校の今後の課題

児童は、ICT機器が情報の検索、共有、発表に活用できることから、端末を使った授業を楽しみにしている。

	肯定的回答	否定的回答
クロームブックを使った学習は好き	95.0%	5.0%
クロームブックを使った授業はわかりやすい	91.0%	9.0%
クロームブックを使って、自分の考えをまとめることができた	92.7%	7.3%
クロームブックを使って、まとめたことを、友だちに伝えることができた	85.8%	14.2%
必要な情報を調べることができた（4～6年のみ）	94.2%	5.8%

- ▲ めあてや個々の特性に応じた媒体の柔軟な選択（小学校の時は紙に書いたほうがいい。なぜなら人は、紙などに書いたほうがよく覚えるから。だから、中学校や高校以上で、デジタルがいいと思う。⇨自分は鉛筆で書いたりするのが嫌いだが、クロームブックを使うとすらすら書ける）。
- ▲ 授業の効率化（クロームブックを使うことで早く授業が進むことがある）。

変化の波（利活用推進）と
研修（活用意義の理解の深化）の継続

主体的・対話的・深い学びのさらなる推進へ

すべての取組(研修)は授業改善に通ず

1 ビジョンの共有

本校は、令和7年度に近畿小学校生活科・総合的な学習研究協議会での発表を予定している。そのため、令和4年度末に、今年度の重点研修として「探究学習」の研修を決定し、年間計画に組み込んだ。

4月の赴任以来、職員会議や終礼、研修報告など機会がある毎に、学校長のビジョン「授業で勝負する三宅小学校」の浸透を図ったところ、教職員は、追加の研修にも理解を示した。

2つの研修及びその結果の取組を2点紹介する。

2 Google Workspace 操作スキルアップ研修

三宅町と川西町の両教育委員会が連携して、12月19日・20日・25日の3日間、Google社より紹介いただいた講師による研修を企画した。教職員は、基礎編の内容でも知らない機能や活用方法があることを知り驚きを隠せず、「3学期には、〇〇に挑戦してみよう!」と決意を表していた。そのことが3学期の利用状況(B-2参照)に現れている。



3 「森本文庫」の設置

多忙を極める教職員の自己研鑽の一助となるよう、「最新の教育事情や本校が目指す教育の方向性を、もっと理解するのに役立つ本(27種類29冊)」を設置した。教職員が休憩に使う場所に設置し、貸出票に本の概要を載せ、おすすめの箇所に付箋をつけるなど、借りやすく・読みやすい工夫を施した。



4 授業研究の時間を生み出す「働き方改革」研修

1月31日に、働きやすさではなく、働きがいを目指して、時間の有効活用について話し合う研修を行った。時間を費やしている業務、負担を感じている業務を出し合い、改善したい・できそうな業務の洗い出しを行った。その後、学年部会→分掌部会→職員会議を経て、意見がまとまった。職員会議や終礼の時間短縮に向けた「教職員ポータルサイトを作ってほしい」という意見が出て、教務主任・事務職員が主となり、試作し、2月中旬より運用を開始している。職員は「見ました」マークを自分のお気に入りの画像に変えたりと、楽しみながら活用している。

運用間もないため、どれだけの時間短縮につながっているかは、現在、調査中である。



ホームページによる地域内外への積極的情報発信

1 本校HPの状況

本校のホームページは既に開設されていたものの、5年以上更新されておらず、また、更新には教育委員会の承認を得る必要があり、使い勝手の悪いものであった。



そこで、Googleサイトを利用し、令和5年6月にホームページをリニューアルし、9月より本格的に情報を発信している。

2 HPの内容

「学校紹介」「三宅の教育」「三宅っ子日記」「三宅小の挑戦」「三宅の給食」等のコンテンツに分かれている。

○ 三宅っ子日記

児童の生き生きとした表情を通して、本校の教育を発信している。



○ 三宅小の挑戦

分かりやすい授業はもとより、「『考動』する児童の育成を目指した授業や指導・支援のあり方について、教職員が奮闘している姿を発信している。リーディングDXスクール事業についても、このページを中心に、紹介している。



○ 三宅の給食

毎日の給食や食育の情報を発信している。



3 学校・家庭・地域とのつながり強化の礎に

4月に赴任以来、家庭や地域の方から、「何か力になりたいけれど、学校の様子がわからない」、「どう声掛けしたらよいかわからない」という声を多くいただいた。

ホームページ開設後、保護者からは「子どもの楽しそうな姿を見られ、安心する」と、好評を得ている。また、地域の方からも「学校の様々な工夫を知り、改めて大変さを感じた。是非、力になりたい」との声をいただくようになった。さらに、地域に住む農家や食材を納品する業者の方から「自分たちが納品する食材がどう使われているかがわかり、生産・販売意欲が高まった」との声をいただいた。

これまで以上に、学校と家庭、地域とのつながりが強くなったように感じている。本校は、令和7年度にコミュニティ・スクールを設置する予定であり、「三宅小親衛隊」を増やす必要がある。そのためには、学校を知ってもらう必要があり、今後も積極的な情報発信に努めたい。

4 家庭・地域の期待に応える学校へ

令和6年度に、電子黒板やAIドリルの導入が予定されている。また、「授業で勝負する」ための教材研究や指導法の研究・研修時間を確保するために、年間授業時間数の見直し等を現在、進めている。令和6年度は本校にとって大きな変化の年になるため、家庭や地域の不安が増すおそれがあり、これまで以上に情報の発信が重要になる。ホームページの充実とともに、教職員や児童の変容・成長する姿を見せることにより、説明責任を果たしていく。